

1 事業の成果

同性愛者や性同一性障害など性的マイノリティの人たちが恒常的に集えるコミュニティスペースを常時（週4日・年間述べ179日）オープンし専門のスタッフが常駐していることにより、そこがハブとなり、行政・教育などと連携が図れ、講演をはじめ様々な事業の増加にもなっている。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、各事業において実施回数が大幅に減少したが、令和3年度はコロナ禍前の令和元年度と同程度までに回復できた。

(1) 健康支援

HIV 即日検査・カウンセリング・電話相談など総合的なサポート体制により、心と身の健康支援を実施。HIV 性感染症検査は年10回実施し138名が受験。HIV(+)1件、梅毒TPHA(+)15件、B型肝炎0件の陽性者を医療機関につなぐことができた。

また、カウンセリング事業は年間47日実施し、延べ相談件数97件の相談を実施した（8～9月は緊急事態宣言のため新規受付を停止した）。

電話相談事業「SHIP ほっとライン」の相談件数は、令和元年度は203件、令和2年度が207件、そして令和3年度が251件と、昨年度は例年に無い伸びを続けている。その一方で相談員の新規参入は募集と研修を行ったにもかかわらず無かった。

(2) コミュニティ支援

性的マイノリティが自由に集える交流スペースを週4日間、年間179日間オープンし、293名の利用があった。アンケート回収は293件で、そのうち、年齢階級別では、10代30名（10.2%）、20代70名（23.9%）、30代80名（27.3%）、40代106名（36.2%）、50代以上7名（2.3%）と20代から40代が全体の87.4%を占めている。

グループミーティングは、セクシュアリティや年齢別に7種類、53回開催し、参加者数は述べ217名であった（新型コロナウイルスの感染状況及び緊急事態宣言発令の影響により8月～9月は会場が使用できずイベントが中止となった）。

また、行政との連携により、横浜市においては交流スペースを19日間開設、横須賀市においてはオンライントークイベントを12回開催した。

(3) 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発

教育機関・行政における講演の回数は103回であった。（前年度は68回）。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 健康支援事業

ア HIV/AIDS 等性感染症の検査の実施（厚生労働省エイズ対策研究事業）

- ・ 内 容 HIV・性感染症検査（即日検査）
- ・ 日 時 年10回 第三月曜日、受付時間 17:40～20:00（終了 22:00）
- ・ 場 所 かながわ県民センター
- ・ 従事者人員 延べ 40人（医師、看護師、検査技師、事務）
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住むゲイ・バイセクシュアル男性 138人
- ・ 支 出 額 874,281円

イ カウンセリングによるメンタルヘルス支援

- ・ 内 容 希望者に対するの対面面接による問題解決支援
- ・ 日 時 隔週金曜 14 時～20 時、隔週土曜 12 時～17 時、隔週水曜 17 時～20 時
(計 47 回)
- ・ 場 所 横浜 AIDS 市民活動センター (中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 階)
- ・ 従事者人員 延べ 47 人 (臨床心理士)
- ・ 受益対象者 来談者 延べ 97 人
- ・ 支 出 額 336,008 円

ウ ホットラインによるメンタルヘルス支援

- ・ 内 容 電話相談
- ・ 日 時 毎週木曜 19 時～21 時 (2 時間)
- ・ 場 所 特定非営利活動法人 S H I P の事務所
- ・ 従事者人員 延べ 105 人
- ・ 受益対象者 相談成立 述べ 251 名
- ・ 支 出 額 444,904 円

エ 横浜市個別相談支援 (横浜市委託事業)

- ・ 内 容 臨床心理士による無料の対面相談
- ・ 日 時 4 月～3 月までの期間 計 24 日 (1 日 2 枠)
- ・ 場 所 横浜市内 (横浜市青少年相談センター、西区福祉保健活動拠点「フクシア」)
- ・ 従事者人員 延べ 24 人
- ・ 受益対象者 延べ 28 人
- ・ 支 出 額 889,614 円

オ 神奈川県派遣相談 (神奈川県委託事業)

- ・ 内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・ 日 時 4 月～3 月までの期間 計 40 回
- ・ 場 所 県内 (学校や公共施設)
- ・ 従事者人員 延べ 40 人
- ・ 受益対象者 延べ 40 人
- ・ 支 出 額 350,688 円

カ 横須賀市派遣相談 (横須賀市委託事業)

- ・ 内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・ 日 時 4 月～3 月までの期間 計 9 回
- ・ 場 所 県内 (学校や公共施設)
- ・ 従事者人員 延べ 9 人
- ・ 受益対象者 延べ 9 人
- ・ 支 出 額 71,457 円

キ 大和市派遣相談 (大和市委託事業)

- ・ 内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・ 日 時 7 月～3 月までの期間 計 1 回
- ・ 場 所 県内 (学校や公共施設)
- ・ 従事者人員 延べ 1 人
- ・ 受益対象者 延べ 1 人
- ・ 支 出 額 6,090 円

ク ゆうそう検査キットの配布（厚生労働省エイズ対策研究事業）

- ・ 内 容 ゆうそう検査キット（HIV、梅毒、B型肝炎）の配布
- ・ 日 時 8月～12月までの期間 計1回
- ・ 場 所 横浜市内、郵送による配布
- ・ 従事者人員 延べ1人
- ・ 受益対象者 延べ1人
- ・ 支 出 額 165,586円

② コミュニティ支援事業

ア コミュニティスペースの運営

- ・ 内 容 性的マイノリティが恒常的に集える場所としてコミュニティスペース「SHIP にじいろキャビン」を開設し、情報の提供や相談を実施する。
- ・ 日 時 毎週水・金・土曜 16:00～20:00、日曜 14:00～18:00 延べ179日
- ・ 場 所 特定非営利活動法人SHIPの事務所
- ・ 従事者人員 179人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ 延べ293人
- ・ 支 出 額 2,919,721円

イ グループミーティングの開催

- ・ 内 容 性的マイノリティやその家族が交流できるグループミーティングの開催とラジオ配信。
- ・ 日 時 4月11日～3月27日の期間 48回、ラジオ配信25回
- ・ 場 所 かながわ県民センター、神奈川県内公共施設等
- ・ 従事者人員 延べ142人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ、およびその家族 延べ202名、ラジオ再生回数17,900回
- ・ 支 出 額 1,004,723円

ウ 横浜市交流スペースの運営（横浜市委託事業）

- ・ 内 容 性的マイノリティの交流スペースの運営
- ・ 日 時 4月～2月までの月2回（計19回）
- ・ 場 所 横浜市内（男女共同参画センター横浜、男女共同参画センター横浜北）
- ・ 従事者人員 延べ38人
- ・ 受益対象者 延べ60人
- ・ 支 出 額 824,865円

エ オンライントークイベントの開催（横須賀市補助事業）

- ・ 内 容 性的マイノリティ当事者の座談会形式によるオンラインイベント
- ・ 日 時 7月～3月の期間（計12回）
- ・ 場 所 オンライン
- ・ 従事者人員 延べ53人
- ・ 受益対象者 延べ200人
- ・ 支 出 額 428,437円

オ 横須賀市性的マイノリティ交流会の運営（自主事業）

- ・ 内 容 横須賀市における10代・20代を対象としたグループミーティングの開催
- ・ 日 時 4月～2月の期間 5回
- ・ 場 所 横須賀市内、公共施設

- ・ 従事者人員 延べ 10 人
- ・ 受益対象者 横須賀市とその周辺地域の性的マイノリティ 延べ 15 人
- ・ 支 出 額 48,342 円

カ 資材の作成

- ・ 内 容 啓発資材（2種類）を作成し、学校など 870 箇所に郵送
（トランス向け 9,000 部、教員向け Presence Letter2022 9,000 部）
- ・ 日 時 1 月～3 月
- ・ 場 所 神奈川県内
- ・ 従事者人員 延べ 8 人
- ・ 受益対象者 教育関係、一般市民など 約 9,000 人
- ・ 支 出 額 330,870 円

③ 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発事業

ア 一般社会への啓発事業

- ・ 内 容 性的マイノリティの理解に向けた講演を実施。
- ・ 日 時 4 月～3 月まで、延べ 103 回
- ・ 場 所 小中学校、高等学校、大学、行政施設、公共施設など
- ・ 従事者人員 延べ 103 人
- ・ 受益対象者 県内の学校教職員・生徒・学生、行政関係者、一般市民 述べ 7,027 人
- ・ 支 出 額 2,251,140 円